

授業概要

近代経済学は、19世紀末にジェボンス（イギリス）、ワルラス（フランス）、メンガー（オーストリア）らが独立して考え出した、経済を分析するためのツールである。それまでの経済学の方法に限界概念を導入することによって、より有用な経済分析が可能となった。

ミクロ経済学は、別名「価格理論」と呼ばれるように、財やサービスの価格がどのようなプロセスを経て決定されるかについて考察する学問である。したがって、本講義では、市場の形態によって価格が決定されるプロセスについて考察する。

授業計画

第1回	ガイダンス（ミクロ経済学が対象とする経済現象）
第2回	効用、限界効用逓減の法則、加重限界効用均等の法則
第3回	無差別曲線、予算線と消費者均衡
第4回	所得効果と代替効果
第5回	ボックス図表
第6回	需要曲線と需要の価格弾力性
第7回	豊作貧乏、不況カルテル、薄利多売
第8回	供給曲線と市場均衡
第9回	くもの巣理論
第10回	総費用曲線、平均費用と限界費用
第11回	最適操業度と最有利操業度
第12回	長期債的規模
第13回	独占市場と寡占市場
第14回	価格差別
第15回	まとめ（ミクロ経済学のマクロ的基礎）
第16回	テスト（筆記試験）

到達目標

- ・世の中のどのような現象が、ミクロ経済学で分析できる対象であるか、を知ることができる。
- ・数学の微分概念を用いれば、ミクロ経済学での限界分析が可能であることを理解することができる。したがって、数学の微分がどのようなものであるかを理解しておく必要があるが、簡単なことを知っておけば、容易に理解可能である。
- ・ミクロ経済学の理解が、マクロ経済学の理解を容易にすることができる。

履修上の注意

現実の経済現象を取り上げることになるので、新聞（特に、経済新聞）の経済欄を注視しておくことが必要である。また、これまでの経済の動き（例えば、石油危機やバブル経済とバブル崩壊など）をよく理解しておく必要があるため、毎日新聞を読んでおいてもらいたい。

予習・復習

学んだ理論がどれほど有効であるかを確認するために、手元に用意したデータを提供する用意がある。そのため、経済分析に関連する授業（例えば、数学や統計学など）を履修しておいてもらいたい。

評価方法

学期末試験：60%、小テスト：20%、受講態度：20%

テキスト

必要な文献については、その都度紹介する。

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：